

令和2年度

美馬市立脇町中学校  
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- わかりやすい説明・指示・発問により、生徒の思考を深める授業の実践
- 生徒同士が認め合い、伝え合い、学び合い自己肯定感を高める授業の実践

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員 福田 恵	委員	校長 横島道彦	教頭 川西 正
		教務主任 中 章訓	1学年主任 西川智子
		2学年主任 大石さえ子	3学年主任 森 輝代
		三宅 央子	

校長

横島 道彦



【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○落ち着いた学習態度で基礎的・基本的な知識・技能が定着し、課題や提出物をきちんと出せる生徒が多い。 ●他の人の意見を取り入れ学びを深めることや、身に付けた知識と知識を関連付けたりすることに課題がある。	・授業の目標を理解し、振り返り、学習内容の理解度や習得度がわかる。 ・家庭学習の充実が図れ、基礎的・基本的な知識や技能が他の学習や生活の場面においても活用することができる。	・生徒の興味・関心を喚起させる授業のために、明確な説明・指示・発問の仕方を工夫する。 ・他学年・他教科の教員が相互に授業参観を行い学び合う。	・各教科における知識・技能の習得をより徹底させる。それを用いた課題解決学習の活動を増やす。 ・教員間の授業参観で学んだことを積極的に授業に取り入れる。	・小テストなどで基本的な知識の定着を図り、基礎基本の充実を図れた。また、効果的な説明・指示・発問の仕方は各教師間で差があるが、教員間の授業参観を通して中堅や若手教員を始め全員が学ぶことができた。	・来年度は学習指導要領が変わるため、各教科ともにさらに効果的な指導の方法や改善が図れるよう、教材研究や準備時間の確保を行う。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○自分の考えを書いたり発表したり、友達の意見をしっかりと聞いたりすることができる生徒は多い。 ●課題に応じて、必要な情報等を取り入れたり、自分の考えをまとめたり、双方向的な話し合いを行うことに課題がある。	・各授業における課題等に対して、話し合い活動等を通して、解決する方法を考えることができる。 ・習得、活用、探究の各場面において、適切な言語活動により表現することができる。	・生徒が安心して自己表現できる学級づくりを学級担任・教科担任が積極的に行う。 ・ホワイトボードや ICT を使って書く・話すなどの言語活動を充実させる。 ・必要に応じてペア・グループワークを効果的に取り入れる。	・密にならない状態での話し合い活動や聞く・話すだけではなく、意見を読み・書きから伝え合う言語活動の充実を図る。	・生徒が安心して授業に取り組めるように、教員間の生徒理解が図れた。 ・ICT の積極的な活用に関しては教師間や教科によってばらつきがあるが、生徒同士の話し合いや発表などの仕方には創意工夫が図れていた。	・深い学びに導くためには、言語活動を行わせるだけではなく、双方向性のある話し合い活動の積み重ねが必要である。そのために、全学年でその積み重ねを行えるに計画を図る。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○各授業へ一生懸命取り組むことができる。また、家庭学習や各テストにも計画的・主体的に取り組むことができる。 ●こつこつと地道に取り組んだり、不得意な学習内容に対して、自分で計画を立てて克服することに課題がある。	・自ら学ぶ意欲や喜びを実感し、目標達成への計画や見通しを持って粘り強く取り組めることができる。 ・課題の解決に主体的に取り組む、試行錯誤しながら解決方法を見つけ出し成就感が持てる。	・授業のねらい、手順や指示の内容を黒板に示すなど板書の仕方や効率的なワークシート作成を工夫する。 ・何を・なぜ・どのように学ぶのが生徒に伝わるよう、授業のめあてを提示する。 ・振り返りの視点を生徒に示し、記述させる。	・生徒のつまずきに対して、効果的な助言を与えたり、生徒が解決が図れたかどうか自己認識できるように復習プリントを作成する。	・ほぼ全員の教員が授業の最初に目標を提示し、最後に振り返りをさせることはできたが、記述は不十分であった。 ・生徒が主体的に学ぶために、生徒の自己肯定感や満足感を高め、学ぶ喜びを実感させることはやや不十分であった。	・生徒に主体的に考えさせる授業を行うために、課題解決学習を行う必要があるが、その内容についてはもっと検討を重ね生徒の意欲向上を図る。

令和2年度 学力向上ロードマップ

